

epoch

エポック No119

～千代田区生涯学習推進委員会議日より

令和3(2021)年10月 発行

第13期第5回 概要報告

8月6日、第5回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。前回の会議において今期テーマ「コロナ禍の生涯学習推進におけるICTの活用と支援の可能性」が決定しました。

第5回会議では、このテーマについてさらなる意見交換が行われました。

以下、概要をお伝えいたします。

I 今期のテーマについて

「コロナ禍の生涯学習推進におけるICTの活用と支援の可能性」

事例報告から

意見交換に先立ち事務局より、最近千代田区内で行われた高齢者や障がいのある方、これまでスマートフォンなどのICT機器に触れてこなかった方への支援・取組み（学習会や講座等）から、4事例を紹介しました。

①ICT機器操作を学ぶ「アキバみんなのサロン・スマホ教室」

②ICT機器操作などをボランティアで教え地域を支える活動「デジタルサポートでつながる社会に」

③ICT機器を用いた活動場面「三崎町ふれあいサロン・大学生と一緒に！あたまやわらかサロン」

④障がいのある方への支援「障害者福祉センターえみふる・パソコンサロン」

つぎに及川委員・渡邊委員より「富士見町二丁目町会シニア向けLINE講座」参加報告がありました。

【意見交換の主な内容】

キーワード 《きっかけ》

○町会のLINE講座にて、スマホも何にも持っていないけどどうしたものか見に来たという方がいた。便利さはわかっているが使うことがない人の気持ちに立ち、何か体験的に中立的に使える場所があるとよいのではないか。

○子どもと違い大人の生涯学習は『楽しい』がキーワードになる。これをやりたい、そのためにはスマホがあると便利、スマホがあれば災害情報が受け取れる、などICT機器を使う勉強を続けるためには「やりたい・楽しい」と思える切り口も大切ではないか。

キーワード 《継続》

○LINE講座もそのときはスマホ等に触れて試し、満足して帰られるが、継続がなければ忘れてしまうのではないか。

○実際に参加したが、習うより慣れろで、機会があればどんどん参加して慣れていきたいと感じた。



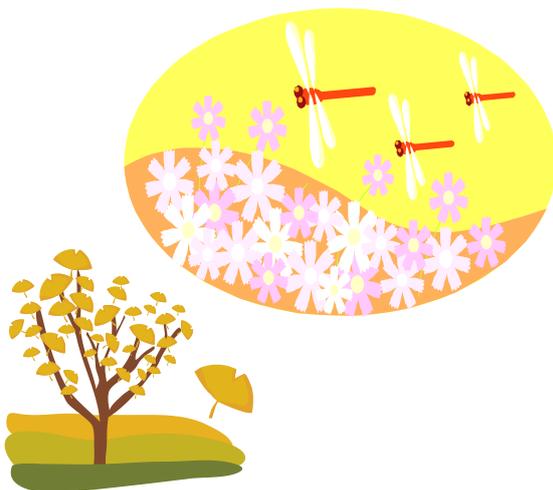
※ICT…Information and Communication Technology
コンピュータ機器やアプリの利活用、メール・SNSなど情報通信技術を使ったコミュニケーション。

キーワード 《段階的な学び》

- 高齢者の中でも、アプリを最初から入れる人から、既にある程度使っている人、上手に使えていてももっとスキルアップしたい人の3タイプがいらっしゃる。
- 最初は同じことの繰り返しでも、繰り返しによって定着してきたら段階的に問題が見え、やりやすさもわかってくるのではないかな。
- 機器の使い方の学習は、あまり集団が大きくなると難しいので、基本編と応用編のような習熟度別などの段階を経て学んでいくことで、楽しく、中身の充実につながっていくのではないかな。
- 社会教育の事業、生涯学習は入門や初級で終わってしまうものが多い。あるいは初級だけで上級がないなどの場合に、上級の人が初級に入ってくるなどは初級の人の参加しにくさにつながる。段階的な学びの機会の提供はICT活用の学びにも共通する。

キーワード 《千代田区の特徴》

- 千代田 Web 図書館は、公共図書館の導入では第1号。蔵書数も増え、コロナ禍で活用度が通常の1.5倍に跳ね上がった。先進事例として全国的にも注目される区の財産。例えばLINE講習会の中にタブレットで本を読むなどは馴染みやすい。外出がはばかれるなか、電子図書の利用価値を高齢者のICT活用や地元で広めていければと考える。



キーワード 《教える人の確保》

- 富士見町二丁目町会 LINE 講座では、ボランティアセンターのコーディネートでIT系ボランティア希望の大学生を紹介いただいた。
- 区内には大学が多い。大学生は大学の垣根を超え大学同士のネットワークでつながっている。学生もオンライン授業が多く、こちらから積極的に投げかけてみるとICT支援に意欲的な学生は多いのではないかな。
- コロナ禍でボランティア活動の様式も変化した。「デジタルサポートでつながる社会に」、「指先一本でできる支援」など、コロナが落ち着いたときの前準備として、徐々にいろいろな切り口からICT活用できるような講座を進めている。

「可能性」



- 今回のテーマである「支援の可能性」の観点から、サービスの拡充・充実が必要となると感じる。高齢者、障がいのある方のみならず、プログラムの数より充実した中身、アフターケアを含めた親切に見ていく、継続して繰り返していくことが必要ではないかな。
- 支援というものもいろいろであり、人生100年という中では実生活における支援が必要ではないかな。ワクチン接種予約を例にとれば、お一人の方の相談先の悩みがあった。デジタル活用支援員などのような人材をどう確保するかが課題となるのではないかな。

広報のありかた

- 区内にはさまざまな草の根のICT活用事例と活動がある。点々ではなく面でやっていく、オーガナイズし、区民に情報をアピールして知らせていく必要がある。

Ⅱ その他

ちよだ生涯学習カレッジ報告



① 第4期・5期の修了報告

第4期 7月27日(火) 卒業式
(Zoom配信によるハイブリッド型)
入学時23名・卒業時9名
第5期 7月17日(土) 修了式
施設見学報告+修了式
入学時22名・卒業時19名

- ◆第4期は卒業式として、来賓の祝辞をいただき、卒業生の紹介を行った。卒業人数に関しては、コロナ禍による転居やテレワーク等、2年次への進級をためられるなど大きな影響があった。
- ◆第5期は授業の施設見学報告会と修了式として行った。5期は当初からオンライン授業を導入していたため、卒業人数の減少は少なかった。

② 施設見学会報告

- ◆第5期施設見学報告会では、学生が自分のスキルを活かした資料を作成し、施設の方にも喜ばれ、地域貢献・社会貢献への可能性の一つとなった。

③ アンケート報告

- ◆オンライン授業には肯定的な半面、気軽なコミュニケーションが取れなく最後の施設見学会報告で対面でき交流することができた。1年間だが自分とは違う考え方を受け入れ、いろいろな人と学ぶことで多様性を感じられた等の意見があった。

④ トライアルコースについて

	10/2 (土) 13:00~13:30 日比谷図書文化館	オリエンテーション	ちよだ生涯学習カレッジ事務局
第1回	10/2 (土) 13:30~17:00 日比谷図書文化館	[人とのつながりと自分にとっての学び]	山西 優二 氏 (早稲田大学文学学術院教授)
第2回	10/20 (水) 19:00~21:00 神田スクエア	[まちをデザインする3つのポイント]	印出井 一美 氏 (千代田区環境まちづくり部長) 1期生 細木博己氏・樋口郁子氏・丸橋千加子氏
第3回	11/17 (水) 19:00~21:00 スポーツセンター	[日本酒と神田をつなげて魅力をつくる]	木村 倫太郎 氏 (有限会社 神田豊島屋取締役社長) 4期生 三田雅康氏
第4回	11/24 (水) 19:00~21:00 オンライン	[遊び×子育て×コミュニティ]	星野 諭 氏 (コミュニティデザイナー) 1期生 大串宣代氏
第5回	12/8 (水) 19:00~21:00 九段生涯学習館	[つながりの多様性]	広石 拓司 氏 (株式会社エンパブリック代表取締役) 1期生 及川浩二郎氏
第6回	12/18 (土) 13:30~17:00 九段生涯学習館	[地域をデザインすること]	笹井 宏益 氏 (玉川大学学術研究所教授) 4期生 浜森香織氏・山下秀敏氏
第7回			
第8回			

- ◆10月から12月にかけて8回、千代田区内各会場で開催。第5回はオンライン授業も取り入れている。ちよカレ卒業生も登壇する。区報8月20日号に掲載、ポスター・チラシ等周知する。



【意見交換の主な内容】

- ◆前回の第1~5期生アンケート結果を分析すると、男女比で女性が6割、家庭の手が離れ時間の余裕が出来た方、男女雇用機会均等法が始まった頃に社会人になり定年を迎える頃の人、磨いてきたキャリアを定年後どうしたらいいのかと、コミュニティに活かしたい、ちよカレで学びたい人が多かった。今後はこのような層をターゲットにするのもよいのではないかと。
- ◆女性が働きやすいなどではなく、男女の共生に適しているコミュニティを考えていきたい。
- ◆プログラムを組むときも女性の視点が必要である。



「中高生の学びの場で」

渡部 糸子

昨年4月、休校措置の中でスタートした令和2年度の新学期、様々な不安を抱えた生徒達に対して、まず最初に試みたのが「Zoom」を使用したの新学期・新クラスのホームルームでした。

手探り状態で始めたコミュニケーションツールとしてのICT活用への取り組みは、その後のコロナ禍での学校生活の継続に繋がる貴重な第一歩となりました。

学校は、家庭と共に「生涯学習」の基盤作りの場であると言われていています。様々な活動の機会を積み重ねて、多感な年代の人間関係の機微を経験しながら、切磋琢磨し合う「学び合い」を通しての「成長の場」であると言えるでしょう。

中高生活は、一般的には「自由に学習機会を選択できる場」とは言えませんが、それだけに、学習環境の整備や綿密なシラバスの作成、学習意欲の向上を後押しできるような「評価の仕方」の検討など、これらが「将来の自主的な大人の学び」に繋がると思えば、現場に係わっている身として、正直その役割の重さを意識せずにはおれません。

それを痛感したのが今般のコロナ禍です。生徒達は、制約の多い学校生活に柔軟に対応しながら、彼らなりの発想の転換で創意工夫を重ね、数少ない学校行事においても達成感を味わっているようです。

厳しい学びの現場を実体験している中高生達が将来その経験を活かして「大人の学び」にも積極的にアプローチし、学びの楽しさを日常生活のエネルギーにしていける社会人に成長することを切に願うコロナ禍の毎日です。



「ちよだ生涯学習ガイドブック2021」の活用について

渡辺 裕之

配布いただいた「ちよだ生涯学習ガイドブック」を開いてみると、区内施設を活用した様々な学びの機会があることに気付かされます。関係する皆様が、区立学校・幼稚園の幼児・児童・生徒を対象とした「生涯学習講座」を企画・運営してくださっていること、また、校外学習のボランティアとして説明にあたってくださっていることに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

一方、区内の施設には大規模な屋外運動場がないことから、「校庭開放」の役割について十分に理解しているつもりですが、再開が見通せない状況が続いていることについては心苦しく思っています。

このような状況下、運動系の講座については、関係の方々が熱意をもってご指導くださっていることに改めて感謝いたします。

とりわけ子どもたちの関心が高い「卓球」については神田・麴町両地区とも参加している児童が多いのではないのでしょうか。前任校でマイラケットを手に大人顔負けのサーブを繰り出している児童もいてびっくりしたことがあります。自分が子どものときに、40円を払って「卓球場」でツルツルのラバーが貼ってあるペンホルダーのラケットでピンポンをしていたことを考えると、今の子どもたちは幸せであると感じます。

さておき、バラエティに富んだ子ども向けの多くの講座があることは、区報や開催される施設のポスターでの案内で知ることができますが、講座の詳細・内容が詳しく紹介されているガイドブックをもっと活用できると良いように思いました。

【編集／発行】

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1

TEL 03(5211)3632 FAX 03(3264)1466

E-mail shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp